

報 告

近畿病院図書室協議会 第130回研修会 (事例・研究報告会)

研修部

日 時：2013年3月19日(火) 10:00~12:00
場 所：キャンパスプラザ京都 2F 第1会議室
プログラム：

1. 病院図書館トリポジトリ
 藍野大学中央図書館 増田 徹 氏
 2. 図書室引越し顛末記
 湘南藤沢徳洲会病院図書室 伊藤 友香 氏
 3. 外国雑誌冊子体から電子ジャーナルへ
 大阪労災病院図書室 松井美抄枝 氏
 4. 外国雑誌直接購入の試み
 鳥取県立中央病院図書室 中島 志乃 氏
- 参加者数：45名(研修部3名)

1. 病院図書館トリポジトリ
病院図書館ヘリポジトリについてのアンケートを実施され、それをもとにした研究結果を述べられた。

病院紀要に載っている文献が入手しにくい現状となっている。病院紀要の灰色化を防ぐにはどうすればよいのか。方法としては送付先に国立国会図書館やJST、医中誌を加える、機関リポジトリを作成するなどがある。しかし、病院図書館員の半数が非正規職員または兼任という状況となっている。図書館が紀要の編纂に携わっていない機関もある。この状況の中で紀要の電子化を進めるのは難しい。

国内電子ジャーナル配信会社の担当の方の証言では、提案は基本的に事務の方にするということ、図書館の担当者が病院側の交渉窓口のなることはほとんどないということだった。

2. 図書室引越し顛末記

病院移転に伴う図書室の引越しの顛末を述べられた。移転に伴い図書館管理システムを導入され、所蔵している雑誌の廃棄をされた。また、NPO 法人医療の質に関する研究会「患者図書室プロジェクト」へ応募された。

図書室の引越しの際は図書および雑誌の移動が大部分を占める。それらをすべて一人でしようとせず、資料の箱詰めは業者に頼む方がよいことや、協力してくれる仲間がいることを忘れてはいけないなどの報告を受けた。

3. 外国雑誌冊子体から電子ジャーナルへ

外国雑誌購読形態を冊子体から電子ジャーナルへ移行した際の流れについて報告を受けた。

購入価格の件もあり、各科医局・各部長先生の意見をもとに購入タイトルを減らされた。電子版導入のお知らせは各医局、関係部署への周知を徹底された。外国雑誌は、今後も価格が高騰していくと考えられるため、利用統計を参考に雑誌の購入を検討していくことになったと述べられた。

4. 外国雑誌直接購入の試み

外国雑誌の機関購読料金の高騰が続く中、直接購入を試みた件について報告を受けた。

直接購入するには、書類はすべて英語、支払いはクレジット決済になる。しかし、公的機関ではクレジット決済の導入は難しく、洋雑誌の直接購入へは至らなかったと述べられた。

(文責：椎木淳美/京都桂病院)